

日本古生物学会 第 175 回例会

2025 年 12 月 5 日（金）～12 月 7 日（日）学会

12 月 8 日（月）甕島巡検

薩摩川内市

*****1. プログラム 概要*****

12 月 5 日（金）SS プラザせんだい 多目的ホール A 会場

【14:00-16:50】 シンポジウム

「化石産地に近い博物館の研究，展示と学習プログラムを考える」 iii

【18:00-20:00】 懇親会（SS プラザせんだい）（要事前申込） iv

12 月 6 日（土）SS プラザせんだい（A-B 会場，多目的ホール後方）

会長講演（2023-2024 年度会長） 多目的ホール A 会場

【09:30-10:30】 北村晃寿「化石記録に基づく温暖化による沿岸生態系変動と南海トラフ巨大地震の予測」 v

特別講演（学術賞受賞記念講演） 多目的ホール A 会場

【10:40-11:40】 特別講演（学術賞受賞記念講演） A 会場

中島礼「絶滅ホタテガイ類の古生態を探る」 v

【11:55-13:25】 ランチョン小集会（B 会場）

「やってみよう！「かたち」の定量解析」 v

ポスター発表コアタイム 多目的ホール後方

【13:40-14:25】 ポスター発表コアタイム 1（ポスター番号 奇数） vi

【14:25-15:10】 ポスター発表コアタイム 2（ポスター番号 偶数） vi

例会への参加は 2025 年 12 月 3 日までに事前登録・決済をお願いします

<https://my-site-108813-105460.square.site/>

第 175 回例会参加費：一般会員 6,000 円，学生会員 2,000 円，友の会会員 1000 円，
一般非会員 7,000 円，学生非会員 3,000 円，名誉会員・高校生以下無料

懇親会申込み（締切：11 月 20 日（木））：<https://forms.gle/fKy1dtvVN9XJCeD7>

懇親会参加費：学生以外 7000 円，学生 4500 円

【15:25–16:25】	一般講演 口頭発表 1 (A–B 会場)	ix
【16:40–17:40】	一般講演 口頭発表 2 (A–B 会場)	ix
【17:50–18:05】	ポスター賞表彰式 (A 会場)	ix
【18:15–19:45】	夜間小集会 (A 会場)	
	身近な地域とつながる古生物学のお仕事—古生物学と地方創生—...	x

12 月 7 日 (日) 会場：SS プラザせんだい (A–B 会場)

【09:30–10:45】	一般講演 口頭発表 3 (A–B 会場)	xi
【11:00–12:00】	一般講演 口頭発表 4 (A–B 会場)	xi

普及講演会・化石友の会イベント (無料・一般公開)

【12:45–13:45】	マーティン・ジャナル Learning from Extinctions (絶滅からの学び)	xii
【14:00–15:00】	真鍋 真 甕島から始める最新恐竜学.....	xii

発表方法と機器についての注意事項など (特に発表者は必ずお読みください)	xiii
会場案内など	xiii

第 175 回例会参加費：一般会員 6,000 円，学生会員 2,000 円，友の会会員 1000 円，
一般非会員 7,000 円，学生非会員 3,000 円，名誉会員・高校生以下無料

第 175 回例会への参加は事前登録制です。

参加される方は，講演の有無に関わらず，以下のサイトにアクセスして，参加登録とクレジット決済を行ってください (名誉会員，高校生以下は参加登録のみ) 。

事前参加登録サイト：<https://my-site-108813-105460.square.site/>

参加登録・決済は 2025 年 12 月 3 日 (水) 24 時までにおすませください。

参加登録を行うと受領メールが送られますので，参加者はそのメールかそれを印刷したものを会場の受付に提示して下さい。受付で確認の上，領収書兼用の名札を渡します。

懇親会への参加申込み期限は 11 月 20 日 (木) です。お間違えの無いようにお願いします。懇親会についての詳細は iv ページをご覧ください。

12月5日（金） 【14:00-16:50】SS プラザせんだい 多目的ホール A 会場

シンポジウム

化石産地に近い博物館の研究，展示と学習プログラムを考える

世話人 小松俊文・山下大輔・真鍋 真

古生物学をはじめとした自然史科学系の博物館の多くは、フィールドと標本を基礎とした研究・普及教育・試料（資料）収集活動を展開している。しかし、技術革新や社会情勢、ニーズの変化によってそれらの活動も大きく変化しつつある。フィールド近接地にある博物館は、大学などの研究教育機関とどのように連携して研究を進めるべきか。フィールドの魅力や研究現場のリアルな迫力はどう伝えるべきか。古生物学の扱う長大・広大な時間・空間スケールを来館者が認識するにはどうしたらよいか。また、新たな社会的課題やニーズにどのように対応すべきか。全国各地の博物館では、多様な取り組みが進められている。

本シンポジウムでは、これらの取り組みについての事例を共有することで研究から博物館での展示作成について考えることを主旨とする。具体的には、ドローンと VR 技術をもとにした野外調査や研究・展示活動の展開、ザイルワークを含めた様々なスキルを駆使した標本採集の現場の展示化、比較研究を目的として収集・標本化されるウミガメなどの漂着標本の骨格標本づくりから直面する海洋プラスチック問題を展示で紹介している事例、海洋無酸素事変など標本を使った展示が困難な抽象概念についての内外の展示の試み、障がい者や外国人とともに実施したワークショップを通じてインクルーシブデザインを実現している事例を紹介する。各博物館におけるこれらの取り組みをもとに展示作成についての討論を行うことに加えて、今後の大学と博物館あるいは博物館同士の連携や新たな企画・展示の立案、学習プログラムの構築、リニューアルなどに向けたきっかけとしたい。

14:00-14:10 趣旨説明（10分）

14:10-14:35 ドローン空撮による三次元モデルを用いた新しい地質調査法と展示：成瀬 元（京都大学）・小松俊文（熊本大学）・石川弘樹（薩摩川内市甕ミュージアム）（25分）

14:35-15:00 現場の迫力を展示へー甕島の断崖調査と“見せる”工夫：三宅優佳（兵庫県立人と自然の博物館）・山下大輔（薩摩川内市甕ミュージアム）・御前明洋（北九州市立自然史・歴史博物館）・對比地孝亘（国立科学博物館）・楠橋 直（愛媛大学）（25分）

15:00-15:25 標本作りから学ぶ海洋プラスチック問題：松本涼子（神奈川県立生命の星・地球博物館）（25分）

休憩（15分）

15:40-16:05 自然史博物館の展示を通して地球科学における抽象概念の伝達を考え

る：ベンジャミン・ブリーデン（東京大学大学院/国立科学博物館）

16：05-16：30 インクルーシブデザインに基づく博物館の展示の取り組み：辻野泰之
（徳島県立博物館）

16：30-16：50 総合討論（20分）

【18:00-20:00】懇親会（SS プラザせんだい）（要事前申込）

懇親会は事前申込制です。参加を希望される方は、必ず事前に下記の懇親会申込用 Google Form にて、11月20日（木）までにお申し込みください。参加をキャンセルする場合も 11月20日（木） までにご連絡をお願いします。

場所：SS プラザせんだい 多目的ホール後方（シンポジウム会場後方）

行き方：薩摩川内市 川内駅隣

会費：

学生以外 7000 円、学生 4500 円

* 受付にて現金でお支払いください。



申込先（Google Form；上の QR コード）

<https://forms.gle/fKyi1dtvVN9XJCeD7>



懇親会への参加キャンセルや問い合わせ先：

psj.satsumasendai2025@gmail.com

12月6日(土) SS プラザせんだい (A-B 会場, ポスター会場 (多目的ホール後方))

【09:30-10:30】 A 会場 (多目的ホール前方)

会長講演 (2023-2024 年度会長)

北村晃寿「化石記録に基づく温暖化による沿岸生態系変動と南海トラフ巨大地震の予測」

【10:30-10:40】 休憩

【10:40-11:40】 A 会場 (多目的ホール前方)

特別講演 (学術賞受賞記念講演)

中島礼「絶滅ホタテガイ類の古生態を探る」

【11:40-11:55】 休憩

【11:55-13:25】 ランチョン小集会 B 会場 (多目的ホール前方)

やってみよう! 「かたち」の定量解析

世話人: 野下浩司 (九州大学・理)

趣旨: デジタルカメラや 3D スキャナ, マイクロ CT スキャナ, 写真測量技術などの発展により, 2D/3D を問わず「かたち」のデジタルデータを取得するハードルは下がってきた。しかし, 得られたデータから「かたち」の情報を適切に取り出し, 定量的に解析する研究はそれほど多くない。解析したい領域を抽出するための前処理や定量化のための手法 (形態測定学的解析や理論形態学的なモデリングなど), 定量化したデータの解析方法, なんとなく難しそうなど, さまざまな要因が「かたち」の定量解析を阻んでいる。これらの要因を取り除き, 「かたち」の定量解析に取り組みたいが踏み出せない人の背中を押したい。

本集会では, 幾何学的形態測定学的解析を例に前処理から形状の定量化, 実測形態空間の可視化までの流れを紹介し, どのような現象を捉えることができるかを議論する。また, 実際に「かたち」の定量解析の第一歩を踏み出すためのハンズオンをおこなう。PC を持参して頂ければ (かつ会場のネットワークかご自身のネットワークが利用できれば) 一緒にコードを動かして実際に定量解析を体験できる。

※会場のある SS プラザせんだいには Freespot WiFi がありますが, 会場の位置や回線の使用状況によっては接続ができない/不安定になる可能性があることをご承知おきください。

※お昼ご飯を持ってお気軽にご参加ください。

【13:30-13:40】 休憩

＜ポスター講演 ポスター会場（多目的ホール後方）＞

【13:40－14:25】 ポスター発表コアタイム 1（ポスター番号 奇数）

【14:25－15:10】 ポスター発表コアタイム 2（ポスター番号 偶数）

- P01 吉村太郎・中山健太朗・安里開士・野田芳和・佐々木猛智 手取層群北谷層の巻貝化石群集に見られる保存バイアスと古環境復元への応用
- P02 日山義弥 北海道留萌郡蝦夷層群産アンモナイト *Damesites* 群集のサイズ分布解析
- P03 御前明洋・三宅優佳・前川匠・小松俊文 九州南西部甌島列島の上部白亜系姫浦層群から産出した複数種のスフェノディスクス科アンモノイド
- P04 唐沢與希・阿部純也 幾春別川支流の夕張越沢最上流部(北海道三笠市)の上部白亜系蝦夷層群鹿島層から産出したアンモノイド類について
- P05 水野愛理・ロバート・ジェンキンズ 熱水エビ *Rimicaris kairei* の消化管内における鉋物の“溶解”
- P06 今井悟・中山健太朗 島根県隠岐島前に分布する下部中新統美田層における 淡水生貝類化石の産状
- P07 青山祐亮・神谷隆宏・藤田利宏・中尾有利子 節足動物の脱皮に伴う外骨格の成長パターン -Cythere 上科(貝形虫類)を例に-
- P08 濱武風太・田中源吾 モロッコ・アンチアトラス山脈の下部オルドビス系 Fezouata 層より産出したラディオドンタ目化石の再検討
- P09 橋本新 介形虫の成体のボア・システムの配置は系統を反映するか：幾何学的形態測定学的アプローチ
- P10 浅野亮介・桑原希世子 ペルム紀放散虫化石 *Ruzhencevispongius* sp.の個体成長
- P11 桑原希世子・菅森義晃 京都府亀岡市春日部地域のペルム系～三畳系放散虫化石群集
- P12 山口龍彦・リチャード ノリス 北西太平洋, シャツキー海台の堆積物 (ODP Site 1209) から産出する暁新世～始新世の貝形虫化石
- P13 土屋 正史 底生有孔虫 *Virgulinella fragilis* の遺伝的集団の形成と貧酸素環境への適応様式の解明
- P14 酒井佑輔・湯川弘一・坂本拓海・築地祐太 福井県大野市上半原地域における中部縦貫自動車道上半原トンネル工事で産出した植物化石
- P15 前川匠・吉村優輝・重田康成・小松俊文 宮崎県高千穂町に分布する三畳系上村層から産出したスパシアン亜期 (オレネキアン期後期) のコノドント化石群集
- P16 山林時也 愛媛県四国西予ジオパーク南部秩父帯の三畳系／ジュラ系 (T/J) 境界チャート層における放散虫生層序と Os 同位体層序比較

- P17 黄木陽人・小松俊文・辻野泰之・穴井千里・高橋 修 北海道古丹別地域に分布する白亜系蝦夷層群羽幌川層の地質構造と放散虫化石層序
- P18 高瀬瑛隆・小松俊文・渡辺正幸・岩切雅志・ルグラン・ジュリアン・山田敏弘・對比地孝亘 鹿児島県薩摩川内市に分布する下部白亜系久見崎層の B・C 部層から産出した化石とフランボイダルパイライト
- P19 三宅優佳・堤 之恭・小松俊文・御前明洋 鹿児島県甕島列島に分布する上部白亜系姫浦層群の層序
- P20 大石宏海・小松俊文・Matthew H. Dick・猪瀬弘瑛 上部白亜系の双葉層群と姫浦層群から産出した起立性コケムシ
- P21 七五三謙信・冨田侑希・浅井勇馬・林昭次・宮下哲人・Mainbayar Buuvei・Badamkhatan Zorigt モンゴル国ゴビ砂漠上部白亜系バルンゴヨット層より産出した鎧竜類頭蓋の新標本について
- P22 大橋智之・合田隆久・酒井佑輔 福井県大野市に分布する下部白亜系手取層群伊月層から産出した小型鳥盤類恐竜の大腿骨
- P23 陣内香苗・柴田正輝・河部壮一郎 イグアノドン類における脳および内耳形態について
- P24 久保泰・Johannes N. Wibisana・Ray A. Sallan・Lauren Sallan 基盤的条鰭類 *Polypterus* の給餌実験による 歯牙マイクロウェア形成要因の推定
- P25 浦田倫太郎・鏑本武久・小松俊文・對比地孝亘・三宅優佳・山下大輔・石川弘樹 鹿児島県甕島列島の中島に分布する下部始新統中甕層より産出した哺乳類化石
- P26 楠橋 直・張 穎奇 ギガントピテクスの大白歯の性差は検出できるか？
- P27 木村一紀・中島保寿・安藤佑介 中新統瑞浪層群から産出したオサガメ科化石の分類学的検討
- P28 坂本拓海・酒井佑輔 福井県福井市美山地域の下部白亜系手取層群小和清水層産の脊椎動物化石の分類学的研究
- P29 井上知也・高橋亮雄・池田忠広・長谷川善和・太田英利 宮古島から産出した後期更新世のへび類化石の分類学的再検討
- P30 齋藤皓太・佐藤たまき・望月貴史 岩手県北東部の上部白亜系種市層より産出した首長竜化石の報告
- P31 鳥井一孝・林昭次・中島保寿 ステゴサウルスの後肢における骨組織の多様性について
- P32 石川弘樹・對比地孝亘・小松俊文・三宅優佳・山下大輔・真鍋真 下甕島鹿島地区に分布する姫浦層群（上部白亜系カンパニアン階）から産出した獣脚類の遊離歯に関する分類学的再検討

- P33 岡部菜々子・ダニエル・ポーリー・ローレン・サラーン 初期の無顎類 *Protaspis* spp. (Heterostracan) の個体群構造分析を用いた寿命と個体発生の推測
- P34 川谷文子・長谷川善和・福島佑一・甲能直樹 宮崎県児湯郡都農町より産出したアシカ科頸椎化石
- P35 神藤修大・中島保寿 宮城県の下部三畳系大沢層より産出した大型海棲爬虫類
- P36 多田誠之郎・小松俊文・御前明洋・三宅優佳・山下大輔・石川弘樹・真鍋真 鹿児島県薩摩川内市甕島の上部白亜系姫浦層群より産出したウミガメ類化石
- P37 藺源圳・楠橋直・栗原悠輔・董麗萍 中国遼寧省の下部白亜系沙海層・阜新層から産出したトカゲ類化石の形態的多様性
- P38 吉澤和子・三上 智之・對比地孝亘 宮城県南三陸町で現地保存展示されている魚鱗類化石の記載と立体データによる記録
- P39 丸山啓志・高橋一真 小中学生の古生物担当学芸員体験―千葉県夢チャレンジを例に
- P40 長野あかね・清水純夫・和田和美・生野賢司・田中公教・池田忠広 「電動スクライブ」を活用した教育普及活動の実例
-
- HP1 生末成美 ロボットを用いた実験的生痕化石再現の試み
- HP2 齋藤大樹・越仲一真 古生代の昆虫の分類について
- HP3 坂東泰地・濱本拓 化石記録と生態学的パターンに基づく恐竜の体色推定
- HP4 阿部英佑 非鳥類型恐竜における食性と頭蓋骨形態・視野の関連性に関する古生物学的考察
- HP5 宇賀神 誠 カムイサウルスの歩行速度及び周辺環境について
- HP6 眞部 怜 現生生物の筋付着痕との比較に基づく大型恐竜 (T. rex, Triceratops) の運動能力と生態的適応の推定
- HP7 水村阿礼・田邊佳紀 鳥取県の中新統多里層より産出した板鰓類歯化石の追加標本
- HP8 田中彩絵・山並 陽菜・山中 詩穂・畑島 一稀 古環境の推測とコロニー判別の手法改良による, *Sphenoceras naumanni* の生態と成長段階の考察

【15:10－15:25】休 憩

【15:25－16:25】一般講演 口頭発表 1（A－B 会場）

A 会場	B 会場
魚類・カメ類の部 座長：多田誠之郎	微化石・堆積の部 座長：野牧秀隆
A1 石川采燈・近藤敏康・宮田真也・清水悦郎 ロボットを用いた翼甲類の形態進化への考察	B1 堀利栄・愛媛大学現生放散虫研究チーム 現生平板状 Spumellaria(放散虫)骨格成長の検討
A2 簀本美孝・酒井佑輔・合田隆久 福井県大野市の下部白亜系手取層群伊月層産シナミア属魚類	B2 林 広樹・日高友貴 宮崎県国富地域における宮崎層群下部の浮遊性有孔虫群集
A3 齋藤健人・柴田正輝 手取層群北谷層から産出したシナミア類化石の予察的報告	B3 山下大輔・三宅優佳・北原優・穴井千里 鹿児島県甑島に分布する後期白亜紀および前期古第三紀堆積岩類の古地磁気層序を用いた堆積年代の推定
A4 平山廉・大塚健斗 石川県白山市柳谷の手取層群桑島層(前期白亜紀)より産出したカメ類	B4 北村晃寿・亀尾浩司・齊藤 毅・河湊俊吾・守屋和佳 熱海土石流堆積物に含まれていた軟質泥岩礫は未知の地層由来

【16:25－16:40】休憩

【16:40－17:40】一般講演 口頭発表 2（A－B 会場）

A 会場	B 会場
哺乳類・恐竜類の部 座長：大橋智之	植物の部 座長：酒井佑輔
A5 田中公教・千葉謙太郎・マイケル・ライアン・池田忠広・辻光彦・実吉玄貴 兵庫県丹波篠山市の下部白亜系篠山層群大山下層から産出したネオケラトプス類の新たな標本の分類学的検討	B5 滝本秀夫・クリスチャン・ポット ベネチテス類の植物全体の復元
A6 近藤征海・田中康平 絶滅した陸生真獣哺乳類における新生児の体重推定	B6 姜淞耀・山田敏弘 北海道から産出した後期白亜紀のヒノキ科スギ亜科の球果化石
A7 大越司・高橋亮雄・千葉謙太郎・高崎竜司・西村玲・実吉玄貴・Batsaikhan Buyantegsh・Buuvei Mainbayar・Zorigt Badamkhatan・Khishigjav Tsogtbaatar モンゴル国上部白亜系 Javkhiant 層産哺乳類化石の分類学的検討	B7 水野翔太・ルグラン・ジュリアン・滝本秀夫・大花民子・中島保寿・望月貴史・加藤太一・吉川広輔 岩手県下部白亜系宮古層群で産出した孢子・花粉化石群集に基づく古植生の復元
A8 宮田和周・富谷 進 鹿児島県薩摩川内市下部始新統中甑層の日本最古の食肉型類について	B8 西村竜輝・ルグラン・ジュリアン・山田敏弘 北海道上部白亜系－古第三系根室層群の花粉層序学的研究

【17:40－17:50】休憩

【17:50－18:05】ポスター賞表彰式（A 会場）

【18:05－18:15】休憩

【18:15－19:45】夜間小集会 （A 会場）

身近な地域とつながる古生物学のお仕事 ―古生物学と地方創生―

世話人：丸山啓志（千葉県立中央博物館），黒須弘美（天草市立御所浦恐竜の島博物館），荻野慎諧（和歌山県有田川町）

趣旨：この約 10 年，都市と地域の格差が叫ばれる中で，地域資源を活用した地域おこしが注目を集めている．この地域資源には，古生物や化石も含まれていて，さまざまな地方自治体で取り組みが行われている．しかしながら，各自治体の取り組みについて，対外的な内容は発信されているものの，その実情を伺う機会は少ない．古生物学者のキャリアとして不透明な部分もある．この夜間小集会では，地方創生と古生物学について，現場の方や経験者（丸山・黒須・荻野）から，募集から採用，活動などの一連の内容について話題提供を行う．次に，学生・ポスドクを中心に参加者からの質疑応答を行う．そして，古生物学者のキャリアとしての地域おこしについて意見交換を行い，参加者間の交流を図りたい．

＊この小集会の内容の一部は，科研費 22K01021 の助成を受けた．

【イントロダクション】

【話題提供】（一人：10 分～15 分程度）

丸山 啓志（千葉県立中央博物館・前鹿児島県長島町地域おこし協力隊）

「地域おこし協力隊での古生物に関わるお仕事について―鹿児島県長島町を例に―」

黒須弘美（天草市立御所浦恐竜の島博物館）

「島から広がる古生物学のお仕事」

荻野 慎諧（和歌山県有田川町・前徳島県勝浦町・前々福井県勝山市・前々々兵庫県丹波市）

「異世界（地方）が望んでいる即戦力チート能力と，その運用法」

【質疑応答】参加者の疑問にざっくばらんに答えます．

【総合討論】古生物学者のキャリアとしての地域での活動や就職について意見交換を行い，参加者間の交流を図ります．

12月7日(日) 会場: SS プラザせんだい (A-B 会場)

【09:30-10:45】 一般講演 口頭発表 3 (A-B 会場)

A 会場	B 会場
絶滅・進化・形態の部 座長: 土屋正史	哺乳類の部 座長: 田中公教
A9 磯崎行雄・高畑直人・Schmitz, Birger・Liao, Shiyong オルドビス紀後期寒冷化・絶滅トリガー: 地球外 ^3He 流入の証拠	B9 富谷進・Morgane Longuet・Rachel Short・Zin-Maung-Maung-Thein・高井正成 偶蹄目踵骨形態を用いた古環境復元方法の発展
A10 池森 慧・岩下 智洋 後期オルドビス紀多板類が示す移行的形質	B10 半田直人・田中公教・池田忠広 兵庫県北部香美町から産出した前期中新世サイ科化石
A11 生形貴男 P/T 境界前後でのアンモノイドの形態的多様性変動	B11 孫正涵・瓦亮狄・廖翊如・卓義揚・甲能直樹・蔡政修 北西太平洋最南のアシカ属: 台湾初めての鰭脚類化石
A12 GOODAY J Andrew・石谷佳之・CHEN Chong・RICHIRT Julien・土屋正史・山下桃・清家弘治・野牧秀隆 北西太平洋深海平原に生息するゼノフィオフォアの形態, 生態, 分布	B12 浅井勇馬・甲能直樹 北海道中頓別町より産出したパレオパラドクシア科束柱目のナチュラルエンドキャスト
A13 野下浩司 ktch: モデルベース形態測定学向け Python パッケージ	B13 犬塚則久 <i>Desmostylus</i> の歩容の復元

【10:45-11:00】 休憩

【11:00-12:00】 一般講演 口頭発表 4 (A-B 会場)

A 会場	B 会場
機能形態・技術・普及の部 座長: 久保泰	軟体動物類の部 座長: 唐沢與希
A14 藤原慎一・西村双葉・岡村太路 二次的水生適応哺乳類の肋骨の胸郭被覆域, 骨密度, 肋骨の厚みは慣性モーメントにどの程度影響するか	B14 吉村太郎・廣田主樹・鍵裕之・松原尚志・佐々木猛智 始新統雄別層産淡水二枚貝 <i>Batissa sitakaraensis</i> の優れた有機質保存と分子古生物学的展望
A15 土田真誓・山本啓太・藤本雅則・河部壮一郎・今井拓哉・多田誠之郎 ダチョウの鼻腔における冷却効果—非鳥類型恐竜類の体温調節の解明を目指して—	B15 村宮悠介・三上智之 白亜系蝦夷層群のコニアシアン階から産出した複数種の <i>Polyptychoceras</i>
A16 丸山啓志・高橋一真・塚本明日香 視覚障害者を対象とした体性感覚に訴える古生物プログラム—チバニアンを例に—	B16 ロバート・ジェンキンズ 西南日本に見られる白亜紀以降のメタン湧水性化学合成群集
A17 和田和美・新谷明子・田中公教・池田忠広 化石クリーニングにおける到達困難な空間への挑戦: 新型エアスクライブの開発	B17 近藤康生・川竹 慶・吹本 樹・山岡勇太 イタヤガイ科二枚貝 <i>Amussiopecten praesignis</i> の季節的微小殻成長からみた生活史と生息環境: 鮮新世以降の変化

【普及講演会・化石友の会イベント】

－無料・事前申込不要－

2025 年 12 月 7 日（日） 12 時 45 分－15 時 00 分

SS プラザせんだい 多目的ホール（A 会場）

12 時 45 分－13 時 45 分

Learning from Extinctions

絶滅からの学び

Martin J. Janal

マーティン・ジャナル

※講演は英語。逐次通訳あり。

休憩 13 時 45 分－14 時 00 分

14 時 00 分－15 時 00 分

甕島から始める最新恐竜学

真鍋 真

本普及講演会はどなたでも参加可能です。普及講演会のみにご参加の場合、
事前申込不要・無料でご参加いただけます。

***** 3. 発表方法及び機器についての注意事項など *****

<口頭発表をされる方へ>

【重要！】口頭講演はパソコン等持参です！貸出はありません。

- 接続端子は、HDMI か D-Sub15 ピン (VGA) の 2 種類のみです。それ以外の端子の場合はご自身で変換アダプターをお持ち下さい。
- WiFi は Freespot のみ利用できます。ただし、位置や接続人数により通信状況が変化しますので、あくまでも補助的な接続手段であることをご承知おきください。
- あらかじめ休憩時間などに接続状況を確認して下さい。講演時間には接続作業時間も含まれます。
- プロジェクター画面は原則として 4:3 画角となります。
- デュアル・ディスプレイ設定のノートパソコン（普段、外部モニターと併用しているノートパソコンなど）は、シングルモニタに切り替えてください。
- パソコン等の接続・操作は、発表者ご自身でお願いします。
- 一般講演の口頭発表時間は 15 分です（発表 12 分＋質疑 3 分。機器接続時間を含む）。

<ポスター発表をされる方へ>

- ポスターのサイズは A0（横 841 mm × 縦 1189 mm）が基本です。最大でも幅 90cm 以下、高さ 170cm 以下に収まるように作成してください。
- ポスター会場は、SS プラザせんだい 多目的ホール後方（シンポジウム会場後方）にあり、12 月 6 日にパネル 48 面がセットされます。
- ポスターは 12 月 6 日（土）の 9:00 から貼ることができます。また、7 日（日）の 11:00 までに各自撤収して下さい。はがしたポスターはお持ち帰りください。
- ポスター掲示用のテープ類は会場で用意します。

<ポスター賞審査にエントリーされた方へ>

第 174 回例会（2025 年 1 月開催）より、ポスター賞審査にエントリーした発表について、ポスターにエントリーロゴ（右図）を配していただくようになります。

以下 URL からエントリーロゴをダウンロードしていただき、ポスター資料の右上の見やすい箇所につけてポスターを作成してください（印刷版ポスターで幅 10cm 程度の大きさになることを想定して、見やすい大きさとしてください）。



https://www.palaeo-soc-japan.jp/events/BestPosterAward_EntryLogo.png

会場案内図 Floor Map

